

確かなまなびと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 三国丘幼稚園
園 長 田中 章恵

令和7年度 重点目標
○3， 4， 5歳児の発達と学びの連続性を意識する ○幼児期の終わり（小学校就学前）までに育みたい視点の共有 ○研究実践園の取り組みの充実 ○早期支援の観点の共有

まなびの現状 意欲的に自分で遊びを見つけ上げられる子、友達との遊びをまねして遊んでみる子、教師が誘ったら一緒にしたり遊びを見つけたりする子、遊びに興味をもちにくくじっとしている子、いろいろなものに興味の対象が移る子など様々な幼児がいる。一人ひとりが自分の思いを様々な形で表出しており、特に大人に対して積極的な関わりを求める幼児の姿からは、家庭で愛されて育っていることが感じられる。家庭の愛情や人への信頼感を土台に、友達やクラス集団の中でも自分の思いを発信し、互いに遊びや生活をつくりだしていけるような姿を育みたい。今年度も、一人ひとりの特性を理解した支援の工夫や、幼児の自立や自己充実感につながるような親子の関わりの啓発も併せて、幼児が主体的に人とかかわる力を育んでいきたい。	こころ・からだの現状 園内では、遊びや活動を楽しんでいる状況が多くみられる。自発活動ではほとんどの園児が好きな遊びを見つけて園庭でからだを動かしている。発育、発達上で個別の配慮や支援を必要とする幼児もおり、一人ひとりを正しく理解するとともに、集団の中での共生の教育をより一層進めていくために、遊びの中でお互いを分かり合い認め合う仲間づくりをめざして教育活動を進めている。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （ 重点とする取組 ）	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価 時期	進捗確認 (～10月)	達成状況（年度末）	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	遊びを通した学びの育成	主体的・意欲的に遊ぶ中で友達と関わりを通して学ぶ幼児を育成する	一人ひとりの幼児の興味・関心を深める教師のかかわり方や環境構成を工夫する	幼児の変容を保護者アンケートや園内会議で検討、判断	個別聴取と書面による評価内容	年間	○ ・色水づくり、砂遊び、どろんこ、鬼ごっこ、ザリガニ釣りなど、一人一人が好きな遊びを見つけ存分に楽しむ姿が見られるようになった。 ・水遊びを楽しんだり、プールで少しずつ水に親しみ、顔をつけたり、泳いだりするなど意欲的に取り組むことができた。 ・5歳児は運動会に向けてそれぞれがめあてをもって取り組み、諦めない気持ち、友達と互いに認め合う姿が育った。 3、4歳児はごっこ遊びを織り交ぜながら運動遊びをしたことで、いろいろな運動遊びへの挑戦意欲が高まった。 ・友達と互いに見合う時間を意識して設けたことで、幼児同士が応援し合ったり、頑張りを認め合ったりする姿が見られるようになった。 ・つくってあそぼうでは、友達と意見を出し合い協力してつくる、友達や保護者とのやりとりを楽しむなどして、自分たちで遊びをつくり進めることができた。 ・劇遊びでは、自分たちがやりたいことをお話の中に取り入れた。「お話をつくる」「役になりきって遊ぶ」「登場人物の気持ちを考える」など、友達とイメージを共有したり物語をすすめたりする楽しさを味わった。役割も変わり合って行い、当日には堂々と発表することができ達成感を味わった。	○ ・劇あそびでは、年間を通じて楽しんできた様々な絵本や物語を生かし、ごっこ遊びを広げながらお話づくりを進めた。 ・こま回し・ドングリなどを転がす場・自由な制作など、幼児一人ひとりが何に興味関心をもっているのかを探り、幼児と一緒に材料や場を整えながら環境構成を行った。 ・「かごめ」「なべなべそこぬけ」などふれあい遊びの体験が積み重なり、友達に声をかけたり誘い合ったりして遊ぶ3歳児の姿が見られるようになった。 ・つくって遊ぼうや劇あそびを通して、自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりする4歳児の姿が見られるようになった。いざこざや困りごとができたときに、幼児たちなりに「どうすればいいか」と話し合い解決しようと試みる姿が見られるようになった。 ・運動会や劇あそびを通して、幼児たちは友達と一緒に楽しさを感じたり、やり遂げた達成感を味わったりすることができた。5歳児では特に、これまでの体験の積み重ねが幼児一人ひとりの自信となっている様子がうかがえる。	○ ・一人ひとりの興味関心を高められるような環境を考え、ダイナミックな保育を行っている。集団と個それぞれを成長させるように働きかけながら、丁寧な保育を行っていた。特に「つくってあそぼう」では、幼児の思いに寄り添いながら、共通の世界観をつくることができおり、幼児を大切にしているということが伝わってきた。 ・年齢・発達段階にあった遊び道具（コマなど）を用意し、幼児のやる気を引き出している。園だけでなく家でもきょうだいで教え合いなどをしている。 ・「自然に身につく」ということが減っている実態がある。そこに教師が意図をもって仕掛け、幼児期の今だからこそ「やってみる」体験を大切にし、幼児の育ちをさらにつなげてほしい。
			幼児の主体的な遊びや生活をつくりだしながら、その中で友達との関わり合いにつながる支援や環境構成を探る				○ ・友達と関わりをもてるように、幼児同士が互いの遊びを見たり感じ合えたりするような場設定をしたり、救急車、消防車ごっこでお面など同じものを身に着けたりすることで、友達を意識するようになってきた。	○ ・戸外ではドッジボールや鬼ごっこなど、集団でルール遊びを楽しみ、5歳児を中心に自分たちでルールを確認したり異年齢間で遊びを進めたりするようになってきた。	○ ○異年齢のかかわりも意識して行っており、年長にはリーダーシップ、年少にはフォロワーシップを育てようとしていることが伝わってくる。幼児の声を聴くことで、自尊感情を高めようと努めていると感じている。
	保育力の向上	3年間を見通した教育課程の研究と教師の実践力の向上を図る	今年度の研修目標を目指し研究保育・研修を通して実践的に学ぶ	研究保育の事後研での指導講評、公開保育時のアンケートの総括	個別聴取と書面による評価内容	年間	○ ・公開保育を実施し、近隣小学校や他園所の教師方と一緒に討議会をもつことができた。幼児の人と関わる力の育ちについて、大学教授の講話と一緒に聞いて学ぶことができた。	○ ・公開保育、研究保育で各クラスの取り組みを全員で見合い、大学教授の助言を受けながら保育を深めた。各年齢の発達段階や個々に応じた支援の工夫について協議の中で具体的にすることができた。	○ ・小学校とも連携しながら、幼小の成長をひとつながりとしてみていく必要があると感じている。最新の論も元にして、経験を裏付けするような教育ができるような研究を進めている。
			教師一人ひとりが自己発揮し、各自の学びや幼児理解など積極的な交流と共有により、教師の資質を高め合う	幼教研各部会や実践記録交流などによる学びや、教育課程、研究保育への反映の実態			○ ・幼児の遊びの様子を写真にとり、教師の援助、環境構成を見直したり、幼児同士の関わりの変容やそこで生まれる学びについて考えた。保育を振り返ったり、自分とは違う視点を知ったりして保育につなげる機会となっている。	○ ・幼児の姿と研修等で学んだことをもとに、幼児の人と関わる力の育ちを探った。一人一人の自己充実感の高まりと継続した関わり活動の保証が幼児の人と関わる姿につながることが分かった。	○ ・保育の成果を幼児の成長や変化からとらえようとしているのは大切。保育力・指導力が教師のやりたいうことをやらせる力ではなく、いかに幼児の力を引き出せるかという視点ももってほしい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	自然や生き物に触れて感動する心を育てる	四季折々の自然の変化を素材にし身近な事業への関心を高める（近隣公園への散歩、登降園時の発見を生かした活動など）	興味関心の深まりを幼児の変容や保護者アンケートから検討、判断	個別聴取と書面による評価内容	年間	○ ・園庭の草花を摘んでの色水遊びや夏野菜の収穫、身近な草花に触れたり匂ったりして、様々な植物に親しむことができた。 ・登園途中に拾ったドングリや、園庭の落ち葉など身近な場所に出合う自然物で遊んだり制作したりすることを楽しんだ。 ・野菜の種まきや花の球根植えをして、植物の世話をしたり生長に関心を寄せたりした。	○ ・3歳児では、ヒヤシンスやカブを自分たちで植え、苗や種に水やりをして生長の喜びを感じることができた。「こんなに大きいカブができたらどうする？」と、絵本からイメージを広げて友達と話したり、カブの大きさを毎日気にかけてりする様子があった。 ・毎日水やりをしたり、葉を食べる虫を捕	○ ・環境から学ぶことはとても大切なこと。特に移り変わっていく「自然」を教材とすることで、「変化」をとらえることや、先を楽しむに思いが育っていくと思う。これからも自然を楽しむ・味わう保育を続けてほしい。

			動植物の生態に感動する場面に接することを通して命を大切にすることを育てる				○	・園内の池でザリガニを釣ったり、触れて遊んだりする幼児が増えた。飼育しているカブトムシの幼虫の死や卵の誕生に出合い、生命の不思議に触れる体験ができた。 ・園庭にいる虫を捕まえたり、飼育している虫になってごっこ遊びを楽しんだりした。また、チョウを幼虫から育て、羽化するまでの過程をみんなで観察したり継続して見守ったりすることができた。 ・冬野菜の収穫を喜び、苦手な野菜も食べてみようとする意欲が見られた。 ・クロッカスやチューリップの花が咲き始めたことを喜び、世話をしている。	○	まえたりして世話する中で、ブロッコリーを身近に感じ心を動かしながらかわる4歳児の姿が見られた。 ・収穫した野菜を弁当に入れてもらおうと、喜んで食べる幼児たちが多くいた。野菜が苦手な幼児も食べてみる姿も見られた。 ・寒い日に偶然できた氷を見つけ、触ったり割ったりして冬の自然を体感した。翌日も氷のできることを期待し、タライや思い思いの容器に水を張って氷をつくり、できた氷に触れた時の感触や透明さなどを楽しんだ。	○	・生き物は「生」と「死」、「静」と「動」など、日々変化や動きを実感できるし、「世話をする」必要がでてくる。規則正しい習慣的に関わることを身に着けるためにも、続けてほしい。
	健やかな体の育成	日ごろからの保健・衛生意識をもち、力いっぱい活動する意欲を育てる	保健行事や衛生の啓発を通して健康への意識を高める 避難訓練など安全な生活に向けた取り組みを通して命や安全に対する意識を高める	衛生（手洗い、トイレ等）のお話を各組行い、避難訓練（火災、地震、不審者）を毎月実施できたかで判断	個別聴取と書面による評価内容	年間	○	・幼児たちが興味・関心をもてるよう、各年齢の発達やクラスの様子に応じて、様々な方法で保健指導をしている。また、指導内容をホームページに掲載したり保健室前に掲示したりして、家庭とも連携・共有できるようにしている。	○	・保健指導のほか、日々の幼児の園生活の様子を見守り声をかけることで、うがいや手洗いなどを自分から進んでするなど生活習慣が身についてきた。 ・毎月各種の避難訓練を実施した。クラス担任の動きのほか、担任外の職員の動きについても様々な場面を想定し役割を交替して取り組んだ。幼児、教師ともに落ち着き考えて行動できるようになってきた。	○	・手洗いや食事についても「あたりまえ」ではなく、どんな意味があるのか、またどんな思いをもって活動しているのかを立ち止まって考えることは幼児にも必要なことと思う。自分を守る・自分を変えることを「思い」をもって実現できる子になってほしい。
子育ての支援	保護者や地域との連携	就学に向けた不安や子育ての悩み等の解消に向けた取り組みを行う	まめっこくらぶ、ふたばぐみなど、未就園児対象の園内での見学や体験等で園の雰囲気を知ってもらい、入園に関する手続きが円滑に進むようにする	9月願書配布からの相談、手続き等が円滑にできたかで判断	実施の状況	年間	○	・季節に合わせた制作や活動を毎月設定し、未就園児が保護者と共に楽しめるようにしている。就園前のふたば組では、椅子に座る・はさみを使うなど、入園後につながる取り組みをしている。また、PTA まめっこママの協力を得ながら、親子ともに遊んだり話したりしやすい雰囲気づくりを大切にしている。	○	・毎月継続して参加する未就園児が増え、親子ともに教師と顔見知りになることで、子育ての悩みや園生活について話したり聞いたりする機会につながった。 ・子育て広場やつくってあそぼう、劇あそびなどの園行事に招待し、園の様子を見てもらったり、園児と触れ合ったりすることで、園生活の楽しさを感じてもらうことができた。	○	・対面で園のことを伝えられるのは強み。さらに「伝わりにくい」ことをどうアピールするか、発信を強化していくための努力を続けてほしい。未就園対象の園庭開放で保護者がアピールするのも良いし、スライドを作るのも良いのではないか。
			保護者向けの講話や懇談・教育相談などを通じて、保育・子育てについて相談しやすい体制にする	保護者アンケートや幼児・保護者の変容について、園内会議で検討・判断	実施の状況	年間	○	・保護者向けには、いつでも幼児のことを話したり相談したりできるような雰囲気づくりを園全体で心掛けている。配布文書で教育相談窓口や教育相談などについて知らせるとともに、必要に応じて個別の懇談会を設けている。	○	・園の自己診断アンケートでは「子育てについて気軽に相談できる」項目では、「そう思う」が87%、「やや思う」が13%と肯定的な結果が出た。大きな行事の後のアンケート（自由記述）では、日頃幼児の様子に不安な保護者の多くも「成長を実感した」と返答していて、幼児が自信をもつことで親も子育ての不安が減少し、親子関係にもよい影響を与えていることが分かってきた。	○	・園では一人ひとりを長いスパンで見守っているが、アンケートではわが子の状況や目に見える事柄だけで判断されてしまうこともあるだろう。幼稚園に来るのが「楽しい」という少数の子にも楽しいポイントをどう作るか、どこかの時間にその子の「わくわく」があることが大事ではないだろうか。

園長より

一人ひとりの幼児たちを中心に据えて、成長を見守ってきました。自分で考え、選択し、表現し、自らの学びを深めていく教育を今後も進めていきたいと
思います。今後も一層、幼児・保護者・地域とのつながりを大切に感謝しながら、三国丘幼稚園での学びをより深く推進していきたいと感じます。

学校関係者評価から

- ・五感を使った体を通した学びをより一層大切にしてほしい。・幼稚園のよさをどうアピールしていくか、頑張してほしい。
- ・思いがつながる毎日の保育を。明日も来たいと思えるような連続性を。（思い・教材・自然など）